

母性看護学概論	1年・後期	1単位	准教授 西川 明美
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210771

1. 授業のねらい・概要

本科目は、母性看護の基盤となる概念、現状と動向、母性看護学の機能と役割について学習する。また、女性のライフステージ各期の概観から、身体的・心理的・社会的・文化的背景を理解し、生活及び健康問題に関して母性看護のあり方を考える。

2. 学修の到達目標

1. 母性看護の概念、役割が理解できる。
2. リプロダクティブヘルス/ライツの概念が理解できる。
3. 母子保健の変遷と動向が理解できる。
4. 女性のライフステージ各期の特徴と健康問題について理解できる。
5. 女性の健康を保持増進するための看護について考えることができる。

3. 授業の進め方

講義（視聴覚教材含む）

4. 授業計画（講義）

1. 母性看護の基盤となる概念・リプロダクティブヘルスに関する概念	5. 生殖に関する生理
2. リプロダクティブヘルスに関する動向	6. 生殖における健康問題と看護
3. リプロダクティブヘルスに関する倫理・不妊症	7. 加齢とホルモンの変化
4. リプロダクティブヘルスに関する法と施策と支援	8. まとめ

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）80%， 課題レポート 20%で総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：ナーシンググラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版
参考文献：系統看護学講座 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

授業の範囲をテキスト・レジュメで予習をして臨み、授業内容について1時間以上の復習を行うこと。

8. 受講上の留意事項

母性看護学実習Ⅰ，母性看護学実習Ⅱの先修科目である。

9. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は教員が内容を確認し、内容に不備があるものは再提出を求める。
試験終了後口頭で試験問題の解答と解説を行う。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得出来ない場合進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

医療機関における助産師としての実務経験を活かして、講義を行う。